

# Viva Brasil★

平成23年度 ブラジル通信  
 11月26日(土)~12月2日(金)  
 No. 13  
 発行者: 宮本 朋子

## APAE (特別支援学校) 訪問

州が管轄しているAPAEと呼ばれる特別支援学校を訪問しました。ここでは、知的障がい者や肢体不自由者が学習しています。この学校は2校あり、4ヶ月~14歳までと15歳以上に分かれています。

14歳までの学校には、266人の子どもたちが通っており、音楽や体育、美術など、活動や遊びを通して学習しています。また、言葉の学習では、具体物を使ったり、口の写真を見ながら発音練習をしたりしていました。ここで働いている人は96人おり、そのほとんどが専門の医者で、脳外科医、小児科医、神経科医、精神科医、臨床心理士などが、様々な角度から子どもたちの状態を把握し、サポートしているそうです。



学校訪問に来た大学生と一緒に



体育の授業

気持ちよさぞ~



楽器演奏もしています

きれいな音色でした



縄で作った楽器

甘い味のヤンを作って売っています



苗を育てています



広告を使った箱作り



調理の授業

手早く野菜を切っていました



織り機を使って敷物作り



クッションやカーテン、シュシュなどを作っているよ

一方、15歳以上の学校では、教科(ポルトガル語、算数、地理、歴史、体育、美術、音楽)や作業を学習していました。特に作業学習の種類が豊富で、コカマル(農業組合)やSESC、SENACなどの団体から指導者やボランティアが派遣され、園芸、裁縫、調理、樹木の剪定など、生活をしていくうえで必要な知識技能の習得を図っていました。この学校には700人の生徒がおり、その中には、学校で働いている生徒もいます。その場合、給料は支払われないそうですが、食事や衣料品などすべて面倒をみてくれるといいます。学校は、8時~12時、13時~17時までであり、障がいの程度によって、勤務時間が半日と1日に分かれています。現在、82歳までの生徒が働いており、マリンガ市以外の地域からも通ってきているそうです。広大な敷地と、州や団体からの支援によって成り立っている学校だからこそ、生徒たちも笑顔で生活できるのだと思いました。

# 連合会所属の日本語学校訪問

マリンガ地区日本語学校連合会には、7つの日本語学校があります。そのうち、マリンガ市には、マリンガ日本語学校のほか、光明学園と本願寺学園、アルボラーダ日本語学校があります。残念ながらアルボラーダ日本語学校は、施設取り壊しのため、来年度以降、閉鎖することが決まったそうです。そこで、複式授業を行っている光明学園と本願寺学園を訪問することにしました。

## マリンガ地区日本語学校連合会

- ・マリンガ日本語学校
- ・光明学園
- ・本願寺学園
- ・アルボラーダ日本語学校
- ・パラナヴァイ日本語学校
- ・フロレスタ日本語学校
- ・マリアルバ日本語学校

	光明学園 (もともとは『生長の家』の学校。現在は、場所を借りているだけ。)	本願寺学園 (本願寺(西)の学校。)
教師数	2人(日本人と日系人)	1人(日系人+サポート1人)
児童生徒数	子どもクラス: 25人(6歳~17歳) ※内非日系人2人。1クラス3~8人構成。 大人クラス: 5人(35歳~70歳) ※日本で中学までいて帰国した14歳の子を含む。 個別指導中心。	9人(9歳~15歳) ※内非日系人3人、ハーフ2人。
授業日	子どもクラス: 月・水・金コース 火・木・金コース 大人クラス: 月と水の2クラス	月・水・金コース 土曜コース(特別クラス) ※隣町に住む非日系人の兄弟に、どうしても日本語を学習したいとお願いされたため、土曜教室を設置。
授業時間	① 8:30~10:00 ② 13:30~15:00 ※初級後半クラスのために、金曜のみ15:15~16:45も行っている。	13:30 ~15:30
授業料	《子どもクラス》 週1回 R\$30 週2・3回 R\$60 《大人クラス》 週1回 R\$20~25	《月・水・金コース》 週2回 R\$30 週3回 R\$40 ※兄弟で通うと一人R\$35。 《土曜コース》 R\$40
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金曜日は、習字や折り紙などの日本文化を学習したり、行事の練習を行ったりする。</li> <li>・多くの理解を得るために、できるだけ保護者と話をする機会をつくっている。</li> <li>・年度末には、修了式を行い、優秀生徒の表彰を行っている。(努力賞、皆勤賞など)</li> <li>・兵庫県の農業高校生を招待し、交流活動を通して日本語会話の実践をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習字や折り紙などの日本文化を学習する時間をとっている。</li> <li>・あいさつや目上の人に対する言葉遣いなどのしつけを大事にしている。</li> <li>・隣町に住む子どもたちのために、休日に教室を開いている。</li> <li>・日常生活に関する言葉を取り入れるため、教科書以外に、プリントを毎回作成している。</li> </ul>
問題点 & 今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと大人や非日系人にきてもらえるよう、夜や土曜開催を検討している。</li> <li>・教師の扱いがまだまだボランティア感覚。研修に参加して指導力を強化しているので、今後は、光明学園の職員として契約できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒数が少なく、学校経営自体は赤字。しかし、本願寺が運営しているため、教師の給料はお寺から支払われている。</li> <li>・お寺に子どもたちが来なくなってきているため、行事を通してお寺に足を運ぶように工夫している。</li> </ul>



学園に通っている子どもたちは、友達に通っているから、祖父母が日本語を習わせたいから、などの理由から遊び感覚でくる人が多く、同じように始めてもやる気によって、レベルがずれていってしまうそうです。そのため、複式授業を取らざるを得ない状態で、教師の負担がとても大きいです。しかし、どの先生も日本語教師としての意識が高く、より良い指導を目指して熱心に勉強していました。

# パラナヴァイ支援団体結成に向けて

ブラジルに来て3ヶ月、日本から帰国した児童生徒の実態を把握するため、たくさんの日系人の方と面談をしてきました。子どもたちが受けてきた教育環境によっても異なりますが、その多くが、帰国直後は学校生活に適應できず、苦勞したといひます。その主な理由が、言葉と学習環境でした。そこで、市や州の教育局において、支援の必要性について継続的に話をしましたが、理解は得られたものの、各学校の校長先生に對応が任されているため、實際のサポートには温度差がでてしまうのが現状でした。一方で、現地の日系人会にも協力を願ひ、SPDC（パラナヴァイ日本文化体育協會）の會長と面談をしたり、會議の議題にかけてもらったりして、サポート体制を作ってきたのですが、日本語学校の運営でさえ厳しい状況にあるため、協力を得ることはできませんでした。ブラジルと日本文化の融合を図りながら、日本の傳統を繼承しているマリंगा市に比べ、パラナヴァイ市の日系人会の力は少しずつ弱まってきているように感じ、とても残念に思ひました。

しかしながら、日常生活における雑談の中で、帰国児童生徒の実態について話をすると、豊橋市の考えに賛同してくださる人がいることに気づきました。そこで、同じ考えをもつ者同士で支援団体を作ることができればと思ひ、メンバー集めから始めました。豊橋市とパラナヴァイ市が教育提携を結ぶ際に尽力してくださった、マリंगा在住の植田さんの協力を得ながら、まずは豊橋で研修を行ってきたクリスライネ先生やアンジェラ先生に声をかけました。その後、パラナヴァイ市で長年店を開いているマキノさんや古北さん、前市長の山川さんなどにも声をかけ、協力をお願いしました。しかし、人口8万人の小さな町では、現地の人間関係や政治問題が絡み、なかなか話が進まず、途中立ち消えてしまいそうになりましたが、とにかく一度みんなで集まって話をしたいと、話し合いの場を設定しました。その中で、パラナヴァイ市の日系人会を盛り上げていくためには、やはり若い人材を育成していくことが大切であること、日本語の話せる若者が必要であることから、日本とブラジルの両文化を体験した帰国児童生徒の存在が不可欠であることを伝えました。その子どもたちを支援することで、日系人会とのつながりを強め、豊橋との連携をはかっていきたいと話しました。その結果、まずはできることから始めようという意見でまとめ、支援団体を結成することができました。問題はまだまだありますが、支援団体を軸に、パラナヴァイ市と豊橋市が連携し合い、未来の子どもたちがたくましく生きていくための心のより所となるよう、今後も働きかけていきたいです。

支援団体のメンバー



私たちがサポートしていきます



アンジェラ先生

クリスライネ先生

一緒に協力していきましょう



西森議員と豊橋ブラジル協會の田中さんとも話しました



## ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルで生活をしていると、レストランやスーパーなどで、ポルキロ（キログラム単位の重さで品物の値段が決まる）が多くみられます。また、レストランでは、出入り口に必ず無料のコーヒーや紅茶が置いてあります。その近くに、ある四角い箱を見つけました。これは、一体何でしょう？

- ①うがい薬
- ②砂糖
- ③デンタルフロス

答え：③（ブラジルの主な食事は、フェイジョン（豆を煮たもの）と肉です。とにかく肉をたくさん食べる習慣があるため、つまようじやデンタルフロスが欠かせないようです。）



ポルキロの店

バイクンク形式

重さを量って支払います

これは何？



出入り口にコーヒーメーカー